

関東甲信越部 第10回学術シンポジウム報告

日時：令和元年8月4日(日)
場所：日本歯科大学 富士見ホール



熱田 互 (東京都)



去る8月4日、日本歯科大学富士見ホールに於いて、公益社団法人日本口腔インプラント学会 関東・甲信越支部第10回学術シンポジウムが開催されました。

お陰様で、猛暑の時期にも関わらず、当会会員の皆様の大変多数のご参加を賜り、参加者371名、ご招待者・共催関係者等を合わせますと、大会参加者数が約450名となり、大変盛会となりましたことをご報告申し上げます。

また、これもひとえに当会会員の皆様のお力添えによるものと、深く感謝申し上げます。

このシンポジウムは、当会名誉会長である相浦 洲吉先生が支部長時代に、若手の登壇機会を増やすことを目的に創始されました。今年で第10回を迎え、第10回記念大会

全研修発表会と題し、当会会長である田中 譲治先生が大会長に就任され、井汲 憲治支部長、田中 譲治大会長として当会が主管で行う運びとなりました。

そのため、当会の名物とも言える全員発表をモチーフに、関東・甲信越支部に所属する全27研修施設から27名の演者が登壇するという、前例のない初の取り組みとなりました。

当日は、田中 譲治大会長、井汲 憲治支部長のご挨拶のあと、シンポジウム創始者である相浦 洲吉当会名誉会長、そして宮崎 隆理事長からもご挨拶をいただきました。

そして、当会会員としては恒例の、関東・甲信越支部会員には未知となる8分発表3分質疑応答、27演題が、当会専務・笹谷 和伸先生の総合司会によりスタートしました。

当会からは、実行委員でもある若井 広明先生が代表演者となり「インプラント治療におけるカスタム・アバットメントと周囲組織について」をご講演いただきました。

開始直後から、会場はほぼ満員となり、熱気に包まれ、質疑応答も活発に行われました。

また、午後には、来年の第39回関東・甲信越支部学術大会を渡邊文彦教授(日本歯科大学新潟生命歯学部・前理事長)、そして第50回公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会(井汲憲治大会長

田中譲治実行委員長、2020年9月18日～20日 於パシフィコ横浜ノース)を井汲 憲治支部長がご登壇され、それぞれの学術大会についてインフォメーションをしていただきました。



心配されていた時間も、笹谷 和伸専務の流石の`仕切り、により、ほぼ予定通り進行することができました。

また、お昼には代議員会議、終了後に施設長懇話会、そして懇親会が執り行われ、充実した1日となりました。

相浦 洲吉先生が創始された学術シンポジウムの記念大会に、支部長 井汲 憲治、大会長田中 譲治として当会が主管となり、そして参加いただいた多数の当会会員の皆様と共にシンポジウムを盛会にできたことは、実行委員一同、この上ない喜びを感じております。

また、実行委員長という大役を、若輩の私にご指名いただいた田中 譲治会長には、大変貴重な、そして学ばせていただける機会をいただき、改めて、この場を借りて、御礼申し上げます。

最後になりますが、一般社団法人日本インプラント臨床研究会への皆様ならびに公益社団法人日本口腔インプラント学会関東・甲信越支部第10回シンポジウム関係者各位のご高配に深く感謝申し上げ、報告とさせていただきます。

公益社団法人日本口腔インプラント学会
関東・甲信越支部第10回学術シンポジウム

第10回記念大会 全研修施設発表会

CISJ 実行委員会

大会長	田中譲治
実行委員長	熱田 互
副実行委員長	三堀陽介
準備委員長	岩本麻也
実行委員	笹谷和伸(総司会)
	若井広明(CISJ代表演者)
	岩野義弘
	北山 徹
	石川剛史
	鈴木弘毅

アドバイザー

相浦洲吉(学術シンポジウム創始者)
井汲憲治(関東・甲信越支部支部長)
笹木 貴(関東・甲信越支部広報委員)